

R6.5.27 定例記者会見 概要

1 災害用授乳カップ・コンパクトベッド寄附受納式について

市長挨拶

この度は、ピジョン株式会社様より、乳幼児向け防災対策の品として、授乳カップ 400 個、コンパクトベッド 111 個を寄贈いただきました。誠にありがとうございます。

また、官民連携事業研究所様には「公民連携促進に関する協定」により、ピジョン様をご紹介いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

近年は気候変動等により自然災害の激甚化、頻発化が進んでおり、日頃からの様々な備えが必要とされるところです。また、本年1月1日に発生した能登半島地震では 245 名の尊い命が奪われ、今なお 3,500 人以上の方々避難所生活をされているとのことです。

本市におきましても、令和元年東日本台風では 700 人を超える住民が指定避難所へ避難いたしました。記録を確認しますと避難者の中には乳幼児が何名かおり、指定避難所において一夜を過ごしたとのことです。

今般寄贈いただきました授乳カップ、コンパクトベッドは、当時当市では備えがなく、この度の寄贈により、改めて、備蓄品の内容などを見直すよい機会をいただいたと思っております。

また、ご寄贈いただいた品につきましては、災害用以外での有効利用も検討したところです。

白石市民として誕生したお子さんの保護者の方に贈呈しております「誕生祝い金・すくすくベビー券」と合わせ、授乳カップを贈呈することといたしました。このことで、保護者の皆様に対し、災害時の備えの重要性・必要性を認識していただけるよいきっかけになるものと期待しております。

また、市内保育施設など 12 か所には、授乳カップとコンパクトベッドを配布し、備蓄品としてだけでなく通常保育にも利用するなど有効に活用させていただきます。

災害はいつ起きるか予測することは不可能であります。日頃から関係機関の皆様と連携し、各種災害に備えていくと同時に、市民の安全、安心確保のため、一層の防災対策の強化に邁進しなければならないと決意を新たにしているところでございます。

結びに、本日ご出席いただきました皆様方の今後益々のご発展を祈念いたしますとともに、引き続き白石市にご支援を賜りますようお願いをいたしまして、御礼のあいさつにかえさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

寄附受納後の挨拶

寄贈者

ピジョン株式会社

ベビーケア事業本部 マーケティング部 商品戦略グループ

田島 誠也 様

- ・当社では「どんなときにも赤ちゃんにやさしい社会」の構築を目指しています。
- ・これまで、同様の取組を48自治体と連携し、実施してきました。
- ・災害用授乳カップは、災害時に水道の使用ができない場合に洗浄しなくても使用できる授乳カップであり、コンパクトベッドは赤ちゃんが安心して休める場所となるものです。
- ・乳児への災害対応について、さらなる社会全体の意識醸成が必要であります。まずは物資から対応する必要があり、今回の寄附がきっかけになればと考えています。

紹介者

株式会社官民連携事業研究所 官民連携コンサルタント

菊池 郁 様

- ・当社は官民連携を検討している企業と行政を繋ぐ中間支援を担う企業です。
- ・白石市とは令和4年9月27日に公民連携促進に関する協定を締結しており、当該協定をきっかけに、ピジョン株式会社様を紹介させていただきました。
- ・白石市の取組は、「赤ちゃんへの防災」の機運を高めるきっかけづくりに資するものであり、さらなる広がりにつながることを期待しています。

質疑応答

Q 寄附の個数の根拠は？不足はないのか？

A 今回寄附いただいた物品は、災害時に備えてストックするだけでなく、普段も使ってもらえるよう、令和6年度及び7年度において、出産時に保護者へプレゼントする物品に合わせて配布します。また、市内各保育園にも配備し、併せて危機管理課でストックする数量を寄附いただいたものです。

Q コンパクトベッドが利用可能な乳児は？

A 体重11kg、身長75cmまでのお子様にご利用いただけます。

Q 県内での同様の寄附事例はあるのか？

A 宮城県内では初の取組となっています。

2 白石市・海老名市姉妹都市提携30周年記念事業について

市長挨拶

本市と神奈川県海老名市は、互いの交流を深めるため、平成6年10月に姉妹都市の盟約を結びました。

本年10月で姉妹都市提携30周年を迎えることから、これを記念して白石市姉妹友好都市交流協会では、海老名市で開催される記念式典へ市民団を派遣する事業を実施いたします。

日程は9月15日から16日の1泊2日、募集人数は60人です。

15日に海老名市で開催される姉妹都市提携30周年の記念式典への参加、海老名市・鎌倉市内の観光を予定しています。

旅行代金につきましては、ひとりあたり48,000円を予定していますが、本市からも姉妹友好都市交流協会に助成を行い、本人負担額としては、ひとりあたり25,000円で実施いたします。

海老名市は、東日本大震災以降に本市への震災復興応援お買い物ツアーを企画いただいたり、その後の豪雨災害や地震災害の際にも本市に応援職員を派遣いただいたりと、姉妹友好である本市のために多くの支援をいただいております。

ぜひ、市民の皆さまと一緒に海老名市で開催される式典を盛大にお祝いしたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

質疑は特になし。

3 ネーミングライツパートナー募集について

市長挨拶

本市では、「第六次白石市総合計画」のもと、「ひとづくり」「地域力の向上」「新しい価値の創造」を基本的視点としたまちづくりを推進するため、市民や様々な関係機関との連携を図りながら、各種施策の取り組みを進めているところです。

このたび、市民・法人等の事業者・行政を結び付け、継続的なパートナーシップの構築を図ることができる仕組みとして、公共施設への愛称を命名する権利を取得する「ネーミングライツパートナー」を募集します。

公共施設に愛称を付けることを通して市有財産を有効活用し、施設の魅力向上に努めるとともに、官民連携による地域活性化及び市民サービスの向上を図ります。

募集期間は、明日5月28日から7月12日までで契約期間は、原則3年以上5年以内、対象施設は、「ホワイトキューブ」や「みやぎ蔵王白石スキー場」、「益岡公園野球場」など6施設7権利となります。

募集期間中は、私自身が市内をはじめとした関係企業などを訪問してトップセールスを行い、パートナーシップ構築を呼び掛けてまいりたいと考えております。

記者の皆様におかれましては、本市の取り組みを広くお知らせいただきますようよろしく願いいたします。

質疑応答

Q 白石市で過去にネーミングライツに取り組んだことはあるのか？

A 今回が初の取組となります。

Q 募集する企業の所在に制約はあるのか？

A ありません。市内や県内企業に限らず、全国から募集します。

Q ネーミングライツの起算日はR7.4.1からなのか？

A 募集期間に応募があった場合、審査や手続、企業との調整ができ次第、開始が可能です。可能であれば、令和6年10月頃からスタートしたいと考えています。

Q ネーミングライツ募集がこのタイミングとなった理由は？

A ネーミングライツについては、事業者とのパートナーシップや市有財産の有効活用により、市民サービスの向上を図るため以前から検討を進めておりました。市内施設の令和4年3月福島県沖地震からの災害復旧に目途が立ったことに加え、今年度が市制施行70周年の記念すべき年であることから、今回、ネーミングライツパートナー募集に至ったものです。

4 その他

質疑応答

Q 激甚災害をもたらす大雨に対応するため、線状降水帯の発生区域の発報区分が「地方単位（例：東北地方）」から「都道府県単位」となったことについて、現時点で市として対応する考え等はあるのか？

A 白石市は、宮城県南部に位置し、福島県境と接していることから、宮城県及び福島県双方への発報について注視していく必要がある。これまでも、仙台管区气象台との綿密な連携により、ホットラインが構築されていることから、引き続き迅速な情報収集に努め、市民のみなさまへいち早く情報をお届けすることに努めていきたい。